

東京市岡会設立50周年特集

東京市岡会設立50周年を迎えて

東京市岡会会長 三浦宏文

「東京市岡会」が設立されてから50周年を迎えることになりました。

歴代の広岡知男、福島正元会長、松原治前会長とは長年にわたって親しくお話しさせて頂いてまいりまして、会長を引き継がせて頂きながら、設立のときの様子を伺うこともなく、事情をよく知らないままに過ごしてきてしまっていて当時のことを述べる事ができないのは、私の不徳の致すところであり



ます。私は、大学2年生のとき(1957年)、1年先輩の山本涼市さんと一緒に後楽園の高浦の花のきれいな時に、おどおどしながら市岡の卒業生の集まりに参加させて頂いたのを覚えています。大阪から数学の正富純先生が東京へ出てこられていて、三鷹学寮へ電話下さって誘いを受けたのでした。大先輩の作曲家の信時潔先生のお顔を拝見することができ、昔の市岡のあたりにはまだ狸が住んでいたというような面白い話を聞かせて頂いたのをよく覚えています。それが東京市岡会と称するものではなくて、その後2、3年経ったところで正式に本会の発足となったのではないかと思います(間違っていたらご容赦ください)。

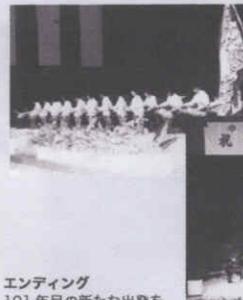
ともかく、50年間に数えきれないほど多くの方々の献身的な努力があって本会が途切れることなく続いてきたことは誠にありがたく、素晴らしいことだと思っています。私は、高校8期生(1956年卒)ですが、余程のことがない限り出席させて頂いております。巨人軍の南村選手にも幾度かお会いしましたし、熊本工業の川上哲治投手から二塁打を打ったのだと話して下さった方はじめ嘗ての甲子園のヒーローが大勢集まられていたのもかなり昔になりました。でもその後も各方面で活躍される卒業生が沢山現れて、総会が毎年賑々しく開かれていることは喜びに堪えません。

与えられた紙面の制限もあり多くのことを書くことはできませんでしたが、50周年を皆様と共に大いに祝い、本会が永遠に続くことを祈りたいと思います。

トピックス

創立百周年記念事業

平成十三年十一月十七日(土) 大阪国際会議場にて大阪府立市岡高等学校の創立百周年を記念して「創立百周年記念式典」が開催されました。式典には、多くのご来賓のほか教職員・卒業生・在校生などが出席し、盛大に執り行われました。



今年の卒業式の模様

平成二十二年三月五日、十時〜十二時にかけて、六一期生の卒業式が講堂で開催されました。今年は、卒業五〇年目に当たる一二期が招待され、約四〇名が参列しました。校門を入ると案内の在校生女生徒がいて、心地よい案内をしてくれました。市岡は制服がないと聞いていたのですが、男女とも統一された清潔な標準服をきちんと着ていました。先生に伺うと、何時もやかましく言っているとのこと。卒業式は、第一部は、君が代斉唱(全員歌っていました)、校歌斉唱、二〇名強(一名物故、数名留年)の生徒への卒業証書授与と校長式辞、第二部は在校生、教師からのお祝いと、卒業生三人によるビデオを使った一年から三年までの回顧録と続き、教育委員会、父兄、同窓会、卒業生などからそれぞれへ記念品が渡され、終了しました。



親睦旅行会 (松原名誉会長を囲んで)

毎年秋には、伊東温泉で東京市岡会の宿泊懇親会が開催されています。



懇親会場
伊東わかつき別邸
(元首相若槻礼次郎男爵の旧別邸)

参加費用(宿泊料2万円弱…通常料金の約半額の特別料金)かけ流し温泉が自慢の和風旅館を利用した一泊二日の懇親会です。(ゴルフをされる方は、コンペもお楽しみいただけます。)

参加お問い合わせ…電話03-3821-0101(北浦齒科医院) なお、年末忘年会を新宿紀伊国屋ビル地下の居酒屋で毎年十二月に理事会終了後開催しています。理事会または忘年会には、どなたでも気軽にお越しください。



最近の東京市岡会総会（挨拶は第四十五回、写真は第四十九回の記録です）

司会…北浦 事務局長（高校十五期）

本日の出席予定者は約八十名です。今年度は会費の値上げもあつたと思われます。最盛期は、約一五〇名の参加がありました。

開会の辞…中井 副会長

本日は東京市岡会総会にご参集くださいましてまことに有難うございます。今、入れ歯を直しているところでお聞き難いところがあるかもしれませんがご容赦ください。第一回総会のときは、私は一番若い役員で、信時 潔さんなど、錚々たる方々がお出でになりました。皆様も年を重ねるほどお元気になられ、いつまでもこの総会に出席されることをお祈りし、開会の辞といたします。

会長挨拶…松原 会長

本日は東京市岡会総会にご出席頂きまことに有難うございます。また、お忙しい中、母校校長先生、同窓会会長にもご出席賜り、真に有難うございます。

いつも言っていることですが、東京は大阪の植民地だと思つています。東京から地方に進出して成功した例は少ないが、地方から東京に進出して成功している人は、大阪を始め多いと思つています。

中学期—高校期の連絡をよくし、若い人に、もっと東京市岡会に参加していただきたいと思つています。

五年後は、五十周年を迎えます。余命があれば、盛大に開催したいと思つています。本日の九十名弱の参加された方々に感謝いたします。

来賓の挨拶…辻野 母校校長

ご招待頂き有難うございます。今総会が盛大に開催されますことをお祈りいたします。母校の現況について本年で百三年を迎えます。今春の卒業生は九十九回目、来春は百回目の卒業生となります。本日も中学期、高校期の多くの方々が参加されているが、今春の入学生は高校五十九期となります。

大阪でも、公立校も頑張っているが私立の台頭が大きい。第三学区は大手前、大阪市立も頑張っている。市立は、理数、英語など特色のあるコースを設け大阪市も力を入れています。

市岡は五年前に英語専門コースを作り、今年は理数専門コースを認めてもらひ、二十名の専門コースとネイティブな英語の先生も揃えました。

生徒は、今月現在、九六二名（二名は転校生）、男子が四五％で、学力部活とも女性上位になっています。

部活動は、女子ソフト部が強く近畿でも上位にいます。吹奏楽部は、大阪で一位になり、近畿では天理について二位を確保しました。部員は「天理には、力では負けないが、楽器の差で負けた。相手は二百万、市岡は二十万」といわれると辛いものがあります。

野球部は、十五年度は公式戦で一勝も出来なかつたが、今年度は、

新入生二十数名が入り、四十名の部員が熱心に練習し、勝てるようになってきました。

もう少しかかりますが、進学や野球についても、昔に近づくことが出来るようにしたいと思つています。職員間でも、学力だけに絞るうかとの意見もありましたが、文武両道を目指す今春も意思統一しました。今後ともご支援ください。最後に、東京市岡会のますますの発展を願つております。



来賓の挨拶…佐藤 母校同窓会会長

こんばんわ！いつもながらのご盛会おめでとうございます。

百周年記念誌は、本編と同窓会編の二冊で構成されます。取り合えず、同窓会編のみをお届けしました。本編は八月末に完成する予定です。

今年度から会長に就任しましたが、会長職も大変です。何とか頑張つて行きたいので、皆様のご支援をお願いします。今年度から顧問を除き、高校期が役員となりましたが、今までの中学期の諸先輩の応援を得て、今までの業績を汚さないように頑張りたい。

明治三四年大阪市で第三番目の中学として本校は出来ました。北野は明治七年ですから二七年の差があります。市岡が出来たときは自由闊達な雰囲気があり、そのため、六期生を中心に自強会（生徒会）を作り、自強の精神を中心とすえました。市岡の自強とは、個性を重視し、好きなことを一生懸命やれということでありました。それを受けて、諸先輩は、各方面で大活躍されました。進学も大阪で一、二を争い、文武両道が伝統となりました。ところが、昭和四三年の学園紛争から地盤沈下が始まり今、何とかしようと懸命に努力を続けているところです。近いうちに成果が出るであろうと期待をしています。

市岡の個性豊かな先輩のトップバッターは、中学五期に、直木實の名を残された植村 宗一氏でしょう。今まで市岡の後輩で、直木實をとった人は、残念ながらいまません。一番近くに居られるのは、ジェームス三木さんではないでしょうか。

編集後記

東京市岡会が設立五十周年を迎えるというので、ごく簡単なリーフレット状のものを編集することになり、市岡高校在学中に学校新聞「みをつく志」を編集していたことから、編集後記のおはちが回つてきた。

思い返せば一九五四年（昭和二十九年）三月、卒業と同時に大阪を後にする。当時は東京へ行くのに利用したのが夜行列車の「銀河」とか「月光」であった。もちろん寝台車ではなく、硬い椅子の三等車だった。夜の十時、十一時ごろ大阪駅を蒸気機関車で発車。夜が明けけるころ浜松で電気機関車に切り替える。その待ち時間を利用して、乗客は一斉にホームへ降り立ち、スズで汚れた顔を洗い、歯をみがく。かくて夜行列車は東京駅へと到着するのだった。

われわれの学生時代は今と異なり完全五割引きの学割があつたが、それでも急行ではなく、大阪帰省の際はドン行を利用したものだ。ドン行で東京—大阪間の停車駅は軽く百を超えた。隣り前の席は乗客が六、七回入れ替わる。中でもおばあさんと隣り合わせると必ずこれ食べなさいあれ食べなさいと、おにぎりやミカンが出てくる。大阪までの間、駅弁ひとつ買わずに済んだ。まだ、学生が少なく、「学生さん」と呼ばれる存在だった。私はいま、大阪訛りの東京弁を喋っているに違いない。

浅井 治（高校六期）

東京市岡会の思い出

松原 治 (中学三十一期)

私は昭和五年春、幸い築港南小学校から旧制市岡中学に合格した。市岡中学は名門校で野球がめっぽう強かった。私が入学した頃は一クラス五十人で、一学年六クラスだった。

当時、校長を務められたのは古川八太夫先生で、みんなから慕われた名校長で、先生方も優秀な方ばかりだった。中でも英語の笹川佐々治郎先生、数学の正富純先生、科学の清水安彦先生には親しく教えを乞うた。清水先生は後に秋田県の視学になられ、東京都立両国高校の校長を務めておられ、わざわざ紀伊国屋を訪ねてくださった。正富先生も長く大阪



の高校の校長を務められ、上京される時は集って飲む会を開いた。市岡中学の出身者は強固な連帯感がある。東京には東京市岡会という同窓会組織があり、私は十五年ほど会長を仰せつかっていった。一昨年工学院大学の三浦学長にお引き受けいただいた。私の前任は、東京学芸大学名誉教授の福島正氏、その前の会長が朝日新聞社の社長を務めた広岡知男氏だった。

東京市岡会の会長に長年就いていた広岡さんは十一年先輩で、市岡中学では野球部のキャプテンだった。東大に進んでも野球部のキャプテンを務めた。昭和六年、わが国一番の不景気のさなかに大学を卒業したが、よく「野球をやったおかげで朝日に拾ってもらった」と口癖のように話しておられた。

東京市岡会は毎年必ず六月ごろに総会を開き、暮れには忘年会を開く。大阪に比べたら、ずっと少ないが、それでも毎回千人以上に通知を出し、百人以上が出席している。

大阪人は東京に対して強い対抗心がある。東京の旧制高校や大学に受験に行く時は応援団が大阪駅に繰り出して「フレフレ」とやっ

て大々的に送り出すのである。東京に着くと先輩が出迎え物心両面であつた。東京市岡会の総会には必ず大阪から校長が出席している。戦後は男女共学となり、中には女優となった人もいる。ジェームス三木さんは毎回必ず出席している。

(株)紀伊国屋書店代表取締役会長

おおらかな校風

ジェームス三木 (高校六期)

よくそんなことができたと思うが、高校時代の私は、演劇部と柔道部に所属し、弁論部と音楽部にも籍を置いた。文化祭では(結婚申込)(おふくる)などの主役を演じ、(絆をおさめて)を独唱して花形だった。柔道は府下の新人戦で、関節技を決め



られ、あえなく初戦敗退した。弁論大会では七位だった。ともかく好奇心が旺盛で、エネルギーが溢れていたわけだが、おおらかな校風が、それを可能にしたといえる。

昭和二十八年春、野球部のセンバツ出場が決まると、応援団長を買って出た。そこで昔の応援歌を、復活することになったが、肝心の楽譜がどこにもない。やむなく大先輩のお宅を訪ねて、何度も歌って貰った。

「鳴尾が原や甲子園——」

という歌詞だったが、歌い方が悪かったのか、私の探譜技術が未熟だったのか、だいふメロデーが違ってしまった、甲子園の本番では、先輩と後輩の間で混乱が生じた。最近になって、私が野球部の愛唱歌「花になれ」を提供したのは、その罪ほろぼしである。勉強についていえば、私には明らかな学習障害があった。好奇心を持てるテーマには、きわめて積極的だが、それにこだわって講義が耳に入らなくなる。たとえば英語の池内先生が、世界最長の単語を教えるといつて、黒板の端から端まで、アルファベットをつないだ。スペルに確信がないので、カタカナで再現するが(ヌー)マロアルタイムイクロスシビシリコヴォルケイノコニオシス)で、硅肺という病名らしい。私はそれだけを、ちゃんと覚えていた。こういうタイプは、自分のペースで自習し、思考するしかないと感じたのは、ずっと後のことだ。

演劇熱にとりつかれた私は、高三になって中退し、俳優座の養成所に入ったので、厳密にいうと卒業生ではない。だが後日の同窓会総会では、会員と認める議決がなされた。おおらかな校風に感謝している。

【政治】

- 中井光次 (元大阪市長、内務省出身、旧中6期)
- 福岡知之 (元日本社会党参議院議員、旧中38期)
- 左近正男 (元日本社会党衆議院議員、高校7期)

【文化・芸能】

- 信時潔 (作曲家、旧中1期)
- 小出檜重 (画家、旧中2期)
- 直木三十五 (作家、旧中5期)
- 三好達治 (詩人、旧中13期)
- 中川三郎 (洋舞家、日本タップダンス界の祖、旧中28期)
- 稲見一良 (作家、旧中43期)
- 山内久司 (朝日放送顧問、花園大学客員教授、高校2期)
- ジェームス三木 (脚本家、高校6期)
- 岩本多代 (女優、高校10期)
- 安藤豊 (RKB毎日放送アナウンサー、高校17期)
- 谷甲州 (作家、高校21期)
- 月嶋紫乃 (井原生子 女優、高校24期)
- 石田英司 (毎日放送社員、ちちんぷいぷいレギュラー出演中、高校30期)
- 柴崎友香 (作家、高校44期)
- カネシゲタカシ (漫画家、元芸人、高校46期)
- 植田佳奈 (声優、高校51期)

【スポーツ】

- 佐伯達夫 (元日本高等学校野球連盟会長、東京六大学野球・早大選手、野球殿堂、旧中8期)
- 田中勝雄 (元早大野球部監督、野球殿堂、旧中12期)
- 伊達正男 (元阪急ブレーブスコーチ、東京六大学野球・早大投手、野球殿堂、旧中23期)
- 川本泰三 (元サッカー日本代表監督、日本サッカー殿堂、旧中26期)
- 今西壽雄 (登山家、元日本山岳会会長、マナスル世界初登頂、旧中27期)
- 南村侑広 (元読売ジャイアンツ選手・コーチ、東京六大学野球・早大選手、旧中31期)
- 笠原和夫 (元高橋ユニオンズ選手・監督、東京六大学野球・早大主将、旧中34期)
- 藤山和夫 (元南海ホークス選手・監督、東京六大学野球・早大主将、旧中39期)
- 青木一三 (元プロ野球スカウト、旧中42期)
- 岩村吉博 (元大阪タイガース選手、高校3期)
- 中西勝己 (元毎日オリオンズ選手、高校6期)
- 南秀憲 (元阪神タイガース選手、高校31期)
- 阿部良之 (自転車ロードレース選手、シドニーオリンピック出場、高校40期)

【その他】

- 影佐禎昭 (陸軍中将、旧中5期)
- 谷口雅春 (生長の家創始者、旧中7期) 早稲田大学文学部英文科中退
- 奥宮正武 (戦史家、元大本営海軍参謀、元航空自衛隊空将、旧中22期)

※出典：ウィキペディア「市岡高校の著名な出身者」より

東京市岡会と共学

松本成男 (中学四十一期)

東京へ転勤後しばらく歳月を経たある日、故 平井啓一先輩 (中33期) から、「東京市岡会」開催のご連絡をいただいた。

当時、平井先輩は、防衛庁にご勤務で、東京市岡会総会会場は、防衛庁関連の「市ヶ谷会館」だったと思う。

少し早めに会場を訪れると、すでに女性会員の方々が来られており、あちこちで大阪弁アクセントの混ざったかん高い話声が聞こえ、とても華やかな雰囲気を感じていました。

私は、昭和10年 (1935年)、港区三先小学校に入学したが、三先小では一年生から男女別クラス (但し、体力的にハンディのある児童は共学で、低学年に各一クラス)、朝礼時の整列、講堂で挙行される祭日式典での整列、運動会や遠足など学校行事のほとんどが男女別だった。

小学校卒業後の旧制中学・旧制高校は男子校、大学は戦後で共学だったが、理工系各学部は女性から敬遠されていた様で、私の長い学生生活では、女性とは全く無縁だった。それだけに、東京市岡会での明るくながやかな総会パーティーは、とても楽しみで、爾来、今日まで度々出席、すでに60年を経て新しい伝統が培われている市岡高校の魅力に触れながら、大いに校友の輪を拡げている。

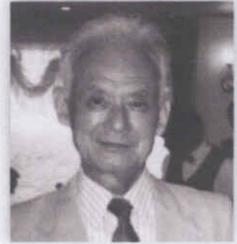
旧中卒のOBは、すでに喜寿を越えた後期高齢者、これからも体力やスケジュールと相談しながら、できるだけ出席して若返りたい。



校門での整列



整然たる朝礼風景



「東京市岡会」五十年に想うこと

益田 陽子 (旧姓 中藤たみ・高校七期)

私が初めて「東京市岡会」に出席したのは、末っ子が小学一年生だった昭和四六、七年だったと思います。

その時は、偶々女性は私一人だったと記憶していますが、次の日、北川さんからお電話があり、「あんな、理事やんなはれ」と言われました。「何をすればよいのですか?」と伺いますと、「何もせんでよろし、なまじ意見なんか言われたら、ややこしくてかなわんさかい」とのことでした。

理事会に何うと、当時はフランス料理のフルコースで素敵なおじさまたちがいらして、三〇代だった私は、ダイエットのことも考えなくて良かったので、メロンやアイスクリームを三人分頂く幸せな会でした。

その後、平井さんに六本木の防衛庁に呼ばれ、ハガキを渡され宛名書きをすることになりました。三百通位だったでしょうが不明者の確認や総会出席へのお願いなど忙しい毎日でした。ハガキがテーブルに積まれると、夫は「またその季節になりましたか」と言っていて、何かと協力してくれました。今は大勢の協力で会計、印刷、郵送などを行っています。

「ふるさとの訛りなつかし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」という啄木の短歌がありますが、毎年総会の時はその場所が突然大阪になったようで、ほんの一時、懐かしい人にあえて青春時代に帰る人もいるでしょう。年齢も仕事も違うのに、同じ場所が何年間か学んだというだけで親近感がわくのは不思議な気がします。

笹川さん達が始められた時は、旧交を温めると共に若い人達の精神的な支えになるという意味があったと聞いていますが、五十年たった今、同窓会のあり方も違ってくると思います。市岡に入ることはエリートでもないし、東京に来ることが出世でもない時代、若い人たちが新しい型の同窓会を作ってくれるのもよいと思います。

私が微力ながら長く携わって来られたのは、素敵な先輩方、大勢の友人、又家族の協力があつたからと感謝しています。

五十年目の門出に際し、若い人たち、特に女性の協力が得られますよう、そして母校市岡高校と共にますます同窓会が発展しますように祈っております。



同窓生の活躍

【学問】

- 田宮猛雄 (東京大学名誉教授、元日本医師会会長、国立がんセンター初代総長、旧中1期)
- 石濱純太郎 (関西大学名誉教授、東洋史学、旧中1期)
- 岡田實 (大阪大学第8代総長、工学、旧中19期)
- 宮本又次 (大阪大学名誉教授、民俗学・経済史学、文化功労者、旧中19期)
- 岡芳包 (元徳島大学学長、細胞生理学・体力医学、旧中26期)
- 角山栄 (和歌山大学名誉教授・元学長、堺市博物館館長、経済史学・歴史学、旧中34期)
- 三浦宏文 (元工学院大学学長、東京大学名誉教授、ロボット工学、高校8期)

【経済】

- 辻巖 (ロックベイント創業者、旧中16期)
- 広岡知男 (元朝日新聞社社長、東京六大学野球・東大選手、野球殿堂、旧中20期)
- 山本和二郎 (元池貝鉄工社長、旧中29期)
- 松原治 (元伊国屋書店会長兼CEO、旧中31期)
- 能村龍太郎 (元太陽工業社長、旧中35期)
- 瀧省一 (元関西銀行社長、旧中40期)
- 手塚昌利 (阪神電鉄相談役、元阪神タイガースオーナー、旧中43期)
- 高田順弘 (元阪神タイガース球団社長、高校11期)
- 大坪文雄 (パナソニック社長、高校16期)
- 新宅正明 (日本オラル社社長、高校25期)

東京市岡会首都圏探索・文化セミナープログラム

「知的発見への旅」の著者、近藤太一さんによる文化セミナーやツアーなど、東京市岡会向けの首都圏探索が開催されます。

文化政策大学院大学客員教授 近藤 太一 (高校15期)



■6月5日 (金) 第50回東京市岡会総会前に虎の門界限散策のお誘い!

第50回総会の当日午後3時から、虎ノ門近辺を探索し、そのまま総会にご出席いただけるミニツアーです。
※詳細並びにお申し込み方法は、同封の案内状をご覧ください。

■近藤太一氏の講演会「お遍路・巡礼をみ出した空海・役の行者・行基について」

期日6月27日 (土) 10時~12時場所新宿アイランドウイング
※申込先: クラブツーリズム 03-5323-5588 コース番号 102143-056

鎌倉探訪

鎌倉在住30数年、退任後、鎌倉の史跡講座を一年間受けてボランティアガイド協会の会員になり、鎌倉の見所を案内しています。

NPO法人 鎌倉ガイド協会 岡村 雄策 (高校6期)



同窓生やお友達などのグループで鎌倉散策をされる場合は、ご相談いただければ、協会とは別に特別なコースを企画してご案内します。

■鎌倉ガイド協会 <http://www.kcn-net.org/guide/>